慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	プラホック : チャムとクメールの交渉関係についての野帳から
Sub Title	PRAHOC : une relation entre Chams et Khmers dans la plaine des Quatre-Bras au Cambodge
Author	近森, 正(Chikamori, Masashi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1967
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.40, No.2/3 (1967. 11) ,p.213(375)- 239(401)
JaLC DOI	
Abstract	La relation entre Chams et Khmers est depuis longtemps historique, c'est un fait qu'on voit sur les reliefs de Bayon d'Angkor. A present les Chams sont quatre-vingt dix mille environ, et ils constituent la troisieme minorite an Cambodge. Le principal mode de vie des Chams est la peche professionnelle. Ils habitent le long des berges du Mekong et du Tonle-Sap. Parmi ces pecheurs Chams qui habitent sur les berges du Tonle-Sap, il y en a qui, ont des relations avec les cultivateurs Khmers qui habitent les provinces Kandal, Takeo, Kompong Speu et Kompong Chhnang, situees sur la rive droite du Tonle-Sap et du Tonle Bassac, au Sud-Ouest de Phnom-Penh. Cette region-la est tres peu poissonneuse a cause de la haute terre sableuse et seche, un relief tres caracteristique. Ces relations se font par le troc du "Prahoc". Le Prahoc est une sorte de condiment national des Khmers, une pate de poisson a odeur tres forte. Dans chaque village les paysans Khmers forment des caravanes de charettes a, boeufs en decembre, janvier et fevrier de chaque annee, et se deplacent sur la berge droite du "Tonle-Sap, transportant des paddys pour echanger avec les pecheurs Chams contre du poisson "Trey Changvar" pour la fabrication du Prahoc. Ces deplacements sont faits seulement dans les jours qui precedent la pleine lune de decembre, janvier et fevrier qui correspond a l'epoque de migration des poissons. Pendant cette epoque-la, une grande quantite de poissons commencent a descendre des forets inondees-ou ils grandissent-vers le Mekong. Les poissons destines a la fabrication du Prahoc sont captures par les "Day" des pecheurs Chams. Le Day est un filet a grande poche en forme de tronc de cone, tres particulier des pecheries fluviales, et ce filet est seulement autorisee que dans le Tonle-Sap. La relation entre pecheurs Chams et cultivateurs Khmers dans la plaine des Quatre-Bras est, par le temps, tres profonde. Ce qui permet une vie commune (une relation de symbiose) tres notable.
Notes	松本信廣先生古稀記念
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19671100-0217

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

プラホック

―チャムとクメールの交渉関係についての野帳から―

近森　正

序

プノンペンから北へトンレ・サップに沿う街道に足をむけてみる。小乗仏教のモハニカイ派寺院や農民の精霊信仰ニアク・タの祠などと並んで、ヴェトナム人のカソリック派キリスト教会、チャム人のイスラム教のモスク、中国人の廟などがつぎつぎに目の前に現われてきて、わずか数キロの間に世界宗教のすべてをみわたす思いがする。クメール人の周辺にひろがるこのような複雑な民族的文化的多様性には、同時にそれらの間に何らかの交渉を通じて共存関係が成立しているのをみることができる。これらのうちからクメール人とチャム人の間の一つの特徴的な相互交渉について、野帳の整理をしておきたい。

クメール人とチャム人の交渉は、アンコール・バイヨンのレリーフにみられるように歴史的に古い関係をもつている。しかし現在、カンボディア領内に居住するチャム人は、南シナ海沿岸を南下してくるヴェトナム人によつてチャムパ帝国が一五世紀に崩壊してから、一九世紀のはじめにかけて移住してきたものとみられ、それは現在なお非常に小さいスケールではあるが進行している。その人口は、約九万、カンボディアにおいて第三位のマイノリティー・グループを形成して

いる。その大多数は、チャムの移住者であると思われるが、その中にはチュヴァまたは、マラユゥと呼ばれるマレイ人の移住者が含まれており、両者はよく混合している。彼らはカンボディア国内において公式的にはクメール・イスラムと呼ばれ、カンボディア国民としてのすべての義務をおっている。チャム人は、主としてスンナ派のイスラム教徒が多く、各部落にモスクがおかれている。チャム人はすべてよくカンボディア語を話すのにもかかわらず、チャムやマレーなど独自の言語をよく保存している。チャム人の生計活動は、特殊なものを除いて殆どが専業的規模の漁業であり、主として河川、湖沼沿岸及び海岸に居住する。居住地域はカンポット海岸地域とトンレ・サップ、メコン河流域の二つに大きく分れている。このうちトンレ・サップ流域では、プノンペンとコンポン・トララックの間、チュラン・チャムレ、クレアン・スベック、コンポン・ルオンなどに主要な中心がある。トレン・サップ流域のチャム漁民は、ある一定の地域のクメール農民との間にプラホックを媒介とする定期的な交易を通じて共生的な相互関係を成立させている。プラホックは、魚の塩漬けによる一種のペーストであって、クメール人の国民的な調味料として米食の最も普遍的な惣菜である。毎年、乾季に入った十二月頃から翌年の二月にかけて、プノンペンの西から南側へかけての広大な農村地帯のクメール農民たちは、このプラホックを求めて村ごとに一〇〇台から二〇〇台の牛車のキャラヴァン隊列を編成し、乾ききった炎天の道を土煙をあげながらトンレ・サップ流域の漁村に向って移動してくる。チャム人はこのプラホックのための魚をダイという魚網の一種によって捕獲し、クメール農民は、携行してきた籾米をそこで魚と交換する。

〔I〕　クメール農村とチャム漁村の自然的基礎

（A）　クメール農村

プラホックを求めてトンレ・サップ流域へ移動してくる牛車隊列の出発地を、一九六五年十二月、一九六六年一月、二

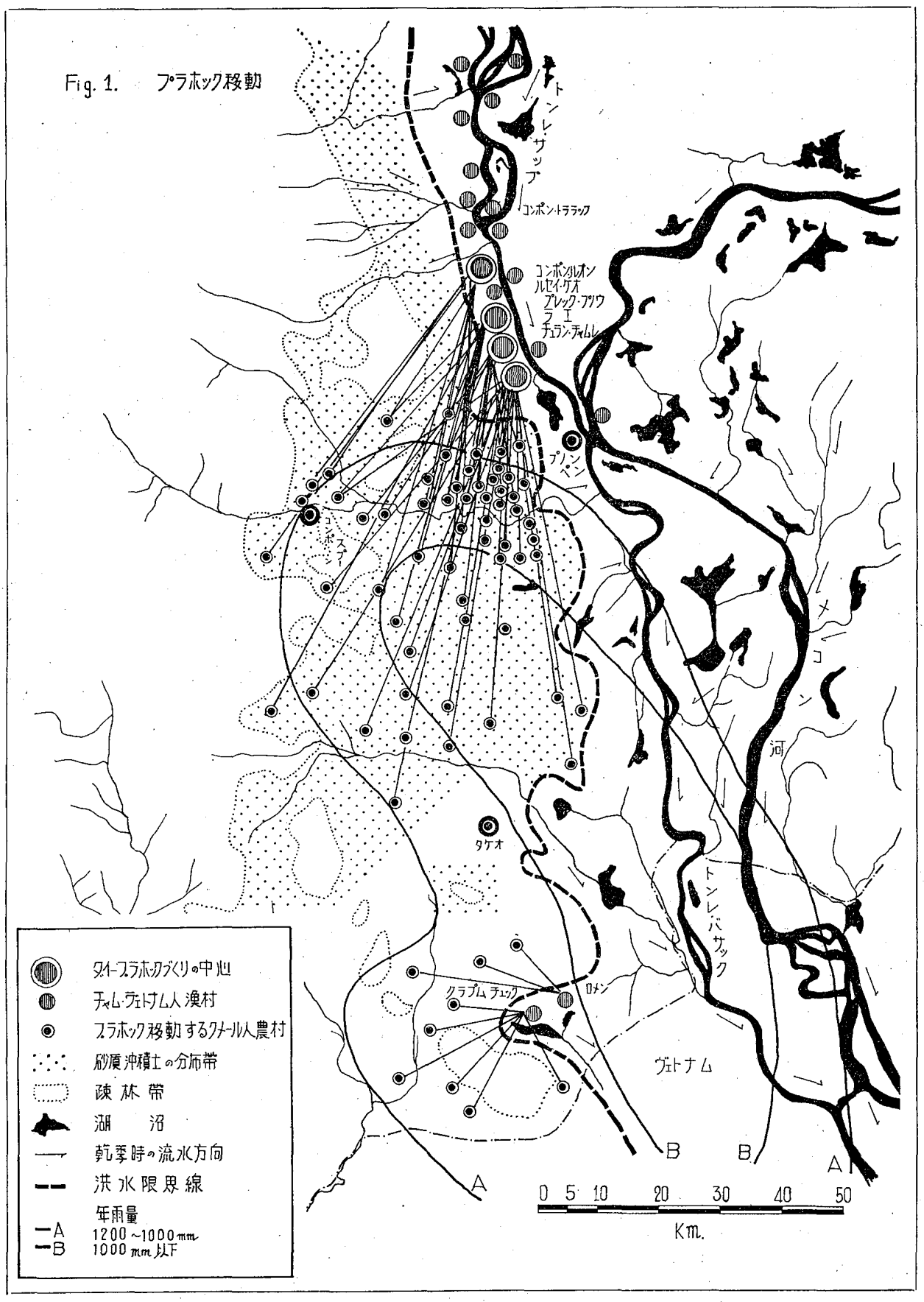
月、及び一九六七年一月、二月にトンレ・サップ流域のチャム人漁村のコンポン・ルオン、チュラン・チャムレ及びプレック・プノウなどで調査した結果にもとずき整理すると以下の如くである。

〔Khet Kandal〕	〔カンダル州〕	Preah-Puth	プレア・プット
(Srok Phnom Penh)	(プノンペン郡)	Siemreap	シェムレアップ
Kantok	カントック	Kank-Trâp	カンク・トゥラップ
Prey- Puoch	プレイ・プオッ	Thmei	トゥメイ
Dâmnak-Ampil	ダムナック・アムピル	〔Khet Kongpong Speu〕	〔コンポン・スプー州〕
Krang-Pongrô	クラン・ポングロ	(Srok Kong-Pissey)	(コン・ピセイ郡)
Krang-Mâkak	クラン・マカック	Preah-Nipeau	プレア・ニポゥ
Beng Thom	ベン・トム	Roka Koh	ロカ・コ
(Srok Kandal Stung)	(カンダル・ストゥン郡)	Ang Popél	アン・ポペル
Poka	ポカ	Tuk-Loâk	トゥク・ロアク
Bat Lovea	バット・ロヴェア	Srang	スラン
Roleang Kev	ロレアン・ケウ	Moha Russey	モハ・ルュセイ
Konpong Kantuot	コンポン・カントゥ	Toul-Ampil	トゥオル・アンピル
Bakûu	バクウ	Po Angkrong	ポ・アンクロン
Kong-Nôy	コン・ノイ	Po-Mreal Nitean	ポ・ムレアル・ニタン
Anlông Romiêt	アンロン・ロミエ	Kâk	カク

(Srok Samron Tong)	（サムロン・トン郡）	Chambak	チャムバック
Krang-Ampil	クラン・アムピル	Sauphi Tram	サウフィ・トゥラム
Kaheng	カヘン	Tang Daung	タン・ダウン
Skuh	スク	Trap Sap	トゥラップ・サップ
Khtum Krang	クトゥム・クラン	(Srok Samrong)	（サムロン郡）
Prey Phdau	プレイ・プダウ	Rovieng	ロヴィエン
(Srok Oudong)	（ウドン郡）	Samrong	サムロン
Peany-Lovea	ペアニイ・ロヴェア	Sla	スラ
(Srok Phnom Sruoch)	（プノム・スルオ郡）	(Srok Prey Krabas)	（プレイ・クラバス郡）
Moha Sang	モハ・サン	Prey Lovea	プレイ・ロヴェア
〔Khet Takeo〕	〔タケオ州〕	Ang Kanh	アン・カン
(Srok Bati)	（バティ郡）		

これらの農村（Khum）を地図上にプロットしてみると、プノンペンの南から西へ廻わる半径約八〇キロメートルの扇形の範囲内に入る。すなわち、トンレ・サップ、トンレ・バサックに沿う細長い浸水低地帯を除いて、その西側から、カルダモム山地の東側縁辺とにはさまれる地帯、カンダル、タケオ、コンポン・スプー、コンポン・チュナン南部の諸州に属するきわめて特徴的な地域が描かれる。まずこの地域が完全に洪水限界線の外に位置し、毎年六月から十一月わたる雨季の浸水現象の影響を全く受けない点に、メコン及びトンレ・サップ低地平野とは明瞭に違つた特徴がみとめられる。概して、標高二〇メートル以上の台地が連なり、西側の後背地には、僅かずつ高度を上げて、キリロム及びエレファント高原

Fig. 1. プラホック移動



につながる非居住地域の疎林帯が広がつている。（この台地の洪水限界線に接する東側縁辺は、十一世紀のプノム・チソー、十三世紀のトンレ・バティ、プノム・タマウ、プラサット・ネアン・クマウなどプレ・アンコール、アンコール時代遺蹟の立地を提供している。）次に、この地域はカンボディア国内では最も雨量の少い地方である点に特徴がみられる。すなわち、メコン河下流地方の雨量分布をみるとクラチエからコンポン・チャムにかけてのチャムカル・ルー高原及びチュップ高原に、年平均雨量二、〇〇〇～三、〇〇〇ミリメートル、最高三、〇七七ミリメートルの多雨地域があり、コムポン・チャムとプノンペン間では一、四〇〇～一、六〇〇ミリメートル、プノンペン附近のトンレ・サップ下流からメコン河、トンレ・バサック分岐点にかけて一、二〇〇～一、四〇〇ミリメートル（プノンペン一、三四〇ミリメートル）の雨量分布がみられるのに対して、トンレ・バサック下流域を含めて、この特徴的な地域は、年雨量一、〇〇〇ミリメートル以下の分布帯に属している。とくにタケオ州のバンテイ・メアスからカンダル州、カンダル・ストゥンの間は著しく雨量が少く、カンダル州カンダル・ストゥンのコンポン・カントゥでは、年七八四ミリメートルが記録されており、カンボディアで最も雨量の少い地方になつている。またこの地域は、ちようどエレファント山脈やキリロム高原の中生代砂岩の分解に由来する砂質沖積土壌の分布帯にあたり、コンポン・チュナンからコンポン・スプー、タケオにかけての台地は、もつぱら白味がかつた砂質土に覆われている。このような砂質沖積土壌は、保水力が小さく、雨水は急速に大地に浸透するので、キリロム高原に源をもつプレック・トゥノー川の他に水脈に乏しく、湖沼が少い。トンレ・サップ～トンレ・バサックの左岸からメコン河流域にかけて、湖沼が著しく濃密な分布を示めすのに対して、右岸の上記地域内には殆んど永久的な沼池を見出すことができない。水牛が沼池に群れ遊ぶ典型的なカンボディアの農村風景がほとんどみられないのもこの地域の特色であろう。通常堀井戸は二〇数メートル以上の掘さくを必要とするほどであつて、乾季の二月から四月にかけて、この地は水の欠乏をきたすことが多い。したがつて稲作は、雨季稲の高台水稲栽培に依存しており、毎年洪水によ

つて新鮮な泥土の供給を受け、乾季稲（減水期稲）の栽培が発達したトンレ・サップ、トンレ・バサックの氾濫域と対照的である。この地域では、五月中旬から六月中旬にかけて播種を行い、七月の上旬から八月にかけて移植し、十一月末から十二月一杯までに収穫を終える半季節稲の栽培が行われているが、砂質の保水性の悪い土壌は同時に養分の保持力が低く、生産力も低い。カンボディア全国における水稲のヘクタール当り平均収量が、〇・九七トンから一トンを越える中にあつて、この地方の水田は、〇・五トン前後である。

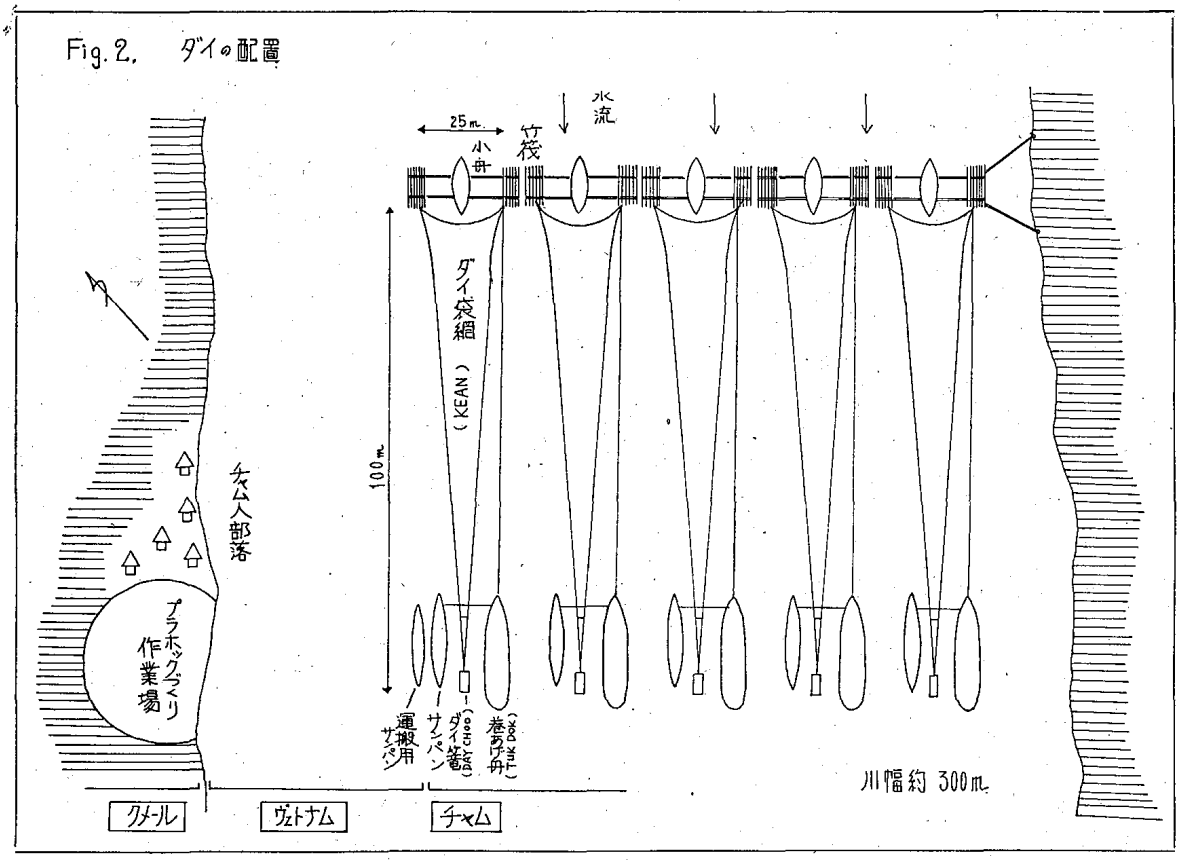
このようにこの地域の自然条件が貧困であるのに加えて、人口密度はかなり高い。カンボディアの平均人口密度平方キロ六〇に比べて、この地方のコンポン・スプー州サムロン・トン、コン・ピセイでは、平方キロ八四を示めし、とりわけプノンペンの南側のカンダル・ストゥンでは二〇〇を越えるところがある。集落は、河川の氾濫域内に位置するものが集村形態をなすのに対して、コンポン・スプー州サムロン・トン、コン・ピセイ、タケオ州サムロン、バティなどの一帯では、散村形態の集落が発達している。

以上述べたように、この地域は雨量が少く砂質土地帯であるために、河川、湖沼の分布に乏しく、魚が少ない。実際、この地方の農民にとつて鮮魚を口にする機会は殆どなく、蛋白源としての魚の供給は、重要な問題である。こうした諸条件は、河岸地帯へのプラホック移動を誘発する基本的な原因になつていると考えられる。（なお、この他、仏教の思想的影響がクメール人の漁業活動を抑制しているともみられるが、これは広くクメール人の家庭的小規模捕魚とチャム、ヴェトナム人の専業的大規模漁業との関係に触れる問題であるのでここではとりあげない。）通常、コンポン・スプー、タケオなどの村では、一戸当り一年間に消費されるプラホックの量は七〇から一〇〇キログラムに達しており、農民の食生活におけるプラホックの比重は、かなり大きいといえる。

（B）チャム漁村

カンボディアの漁業は、メコン河の水位の変化に大きく支配されている。雨季の六月から十月にかけてメコン河の水量が増大するために河の水は、トンレ・サップを逆流して大湖に流れ込み、トンレ・サップ、大湖周辺の低地平野にもひろがつて、大規模な洪水林や内陸湿地帯を形成する。乾季の減水期には、面積二、七〇〇平方キロメートル程度の大湖は、雨季の増水期には約一〇、〇〇〇平方キロメートル、三倍以上の面積になる。大湖や周辺の低平地は、こうしてメコン河の水の流量調節の機能を果すとともに、魚族の産卵、繁殖地としての非常に条件のよい場を提供している。六月からはじまる増水期の間に親魚は、メコン河を離れて、逆流するトンレ・サップの流れにのつて洪水林地帯に入つて産卵する。洪水林の中では水没した樹木が産卵場を形成し、稚魚を保護する。樹周にできるゼラチン質や著しいプランクトンが養分となつて成長した魚は、十一月になり減水期がはじまると水の後退にともなつて洪水林を去つて、湖や沼に入りさらに河川へ戻りはじめる。魚族の移動は、十一月から翌年四月の間の月の満ち欠けと関係のある七～十日間にとくに顕著である。すなわち陰暦の六日か七日に始まり十四日、満月直前までの間に集中的に行われる。（後述）トンレ・サップ流域の漁業が活発になるのは、ちようどこの魚族の流下移動の時期に対応している。このようにメコン河の水位変動にしたがつて大規模な回遊を示めす魚類は、主としてコイ科の浮魚であつて、これが簗、投網、後に述べるダイの対象となる。

トンレ・サップ流域には、こうした魚族の移動を待ちかまえるようにして、漁民の集落が発達している。チャム漁民は、トンレ・サップの自然堤防の上と河岸斜面に高床式家屋でもつて列状集落をつくり、ヴェトナム漁民は、トンレ・サップに流入する小河川（Prek）の出口に浮上家屋を作つて集落を形成している。トンレ・サップ流域のチャム人集落は、チュラン・チャムレ（Chrang-Chamrès）、プレック・プノウ（Prek-Phnou）、クレアン・スベック（Khleang-Sbek）コンポン・ルオン（Kompong-Luong）ペアム・ロヴェック（Peam-Lovek）、コンポン・トララック（Kompong-Tralach）、コンポン・タチェ（Kompong-Tachès）、ヴェトナム人の集落は、ラ・エッ（LàEth）コンポン・シロック



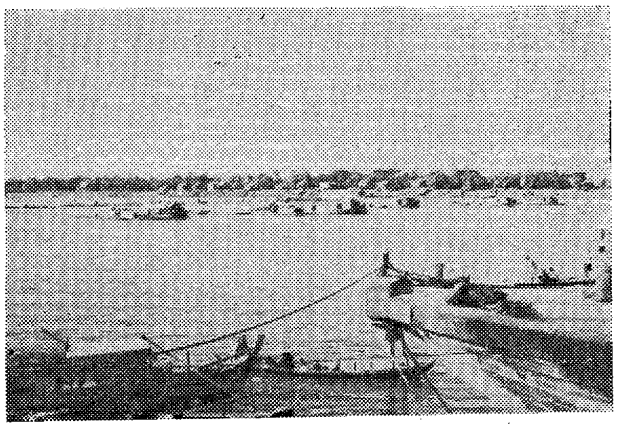
(Kompong-Shlok)、コンポン・トララック (Kompong-Tralach)、コンポン・チュナン (Kompong-Chhnang) などであり、これらのうちプレック・プノウ、チュラン・チャムレ、コンポン・ルオン、ペアム・ロヴェックなどは、水田耕作民であるクメール人が、プラホックを求めて集まってくるセンターになつている。

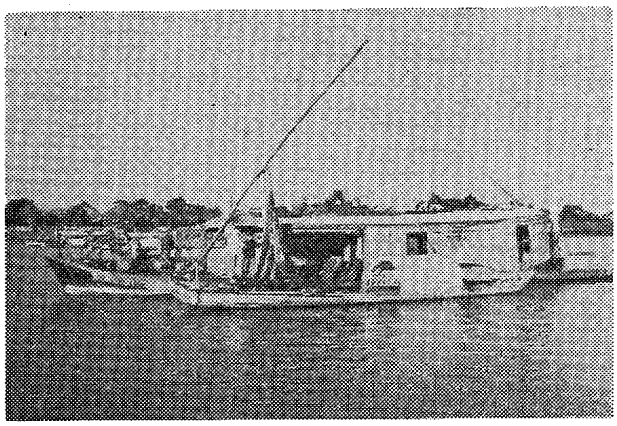
〔II〕 ダイ漁法

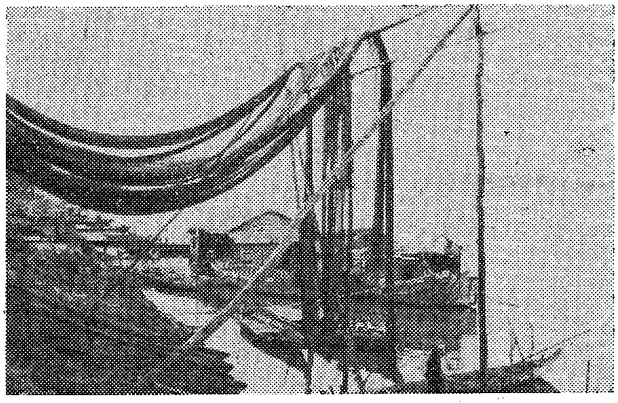
ダイ漁法は、カンボディアの淡水漁業のうち河川漁業の漁法としては、最も規模の大きいものである。これは、非常に大きな円錐形の袋網を用いるもので、大湖と洪水林の中で成育し、乾季になつて水位が降ると共に、トンレサップに流下してくる数センチのものから一メートルに及ぶ全ての浮魚を対象とする。洪水期の水がひきはじめる十一月中旬から敷設準備がはじまり、十二月から翌年三月はじめまで、約三ケ月間操業される。使用はトンレ・サップのコンポン・ルオンとチュラン・チャムレの間にだけしか許されていない。

ダイは次の三つの部分から構成される。(Fig. 2)

PL. 1


1


2


3

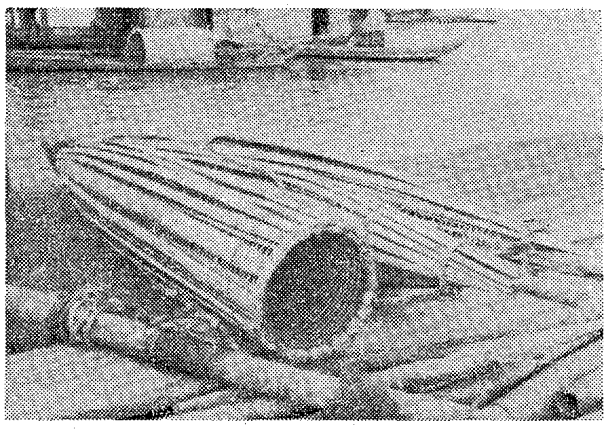
4

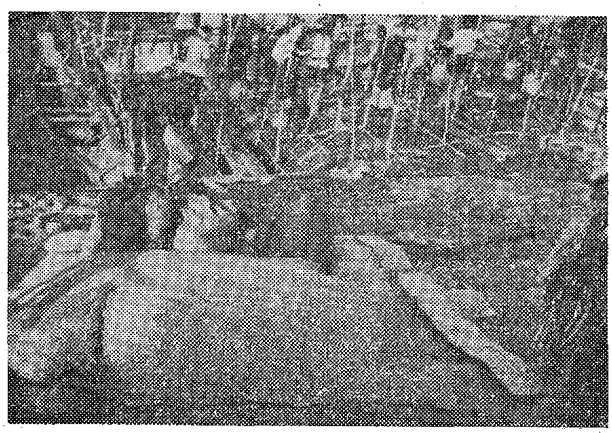
5

㈠　竹筏の部分・碇によつて固定され、繋ぎ合された二つの竹の筏は、二〇～二五メートルの間隔を置いて平行に、水流と同じ方向に水面に浮いている。小舟が二つの筏の間にあつて桁と綱具によつて両側の筏に連結されている。敷設の際には、この部分が最初につくられ、網の配置に基本的な安定性を与える。

㈡　ポケット状の袋網：円錐形で口径部の最大直径二〇メートル、全長八五メートルで、水平に流れの中に浮く。網の目は、口の部分で一〇～一五センチメー

PL. 2


1


2

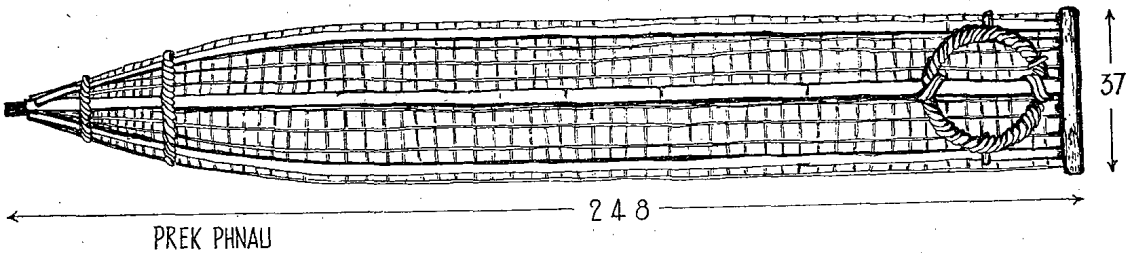
3

4

5

トル、末端部に達するにしたがつて次第に縮少し、末端で一センチメートルになつている（Kaen）。網の底にさらに長さ十二メートルの網（Rou）がつき、円筒状のダイ籠（Daychho）によつて終る第二のポケットが構成されている。（PL. 1-3.）そのダイ籠（Daychho）は、籐と竹で作られており、通常、直径三五～四〇センチメートル、全長二五〇センチメートル、最小のもので直径二五セン

Fig 3.　ダイ竜（ダイ・チョ）



チメートル、全長一八〇センチメートル。(PL. 2-1, Fig. 3)

㈢　巻あげ機船（Tuk dok）：甲板のある大型のサンパンが大索または太い針金によつて、左岸寄りの筏に一つずつ筏の一〇〇メートル下流に船首を川上に向けて繋留されている。そのサンパンからダイ籠を適当な深さ（十五メートル）に配置するロープがつながれていて、船体前部に置かれた小型の捲揚機械（Robat）によつて、その配置綱を捲きつけてダイ籠を引き上げることができるようになつている。(PL. 1-2)

以上三部分から一単位のダイが構成される。ダイの網は、流水の力と、筏の上下に垂直に固定された竹竿によつて開かれ、それを維持している。大小の数多い浮魚は、全て水の流れによつて漏斗状の網の中にひき入れられ、その末端に設けられたダイ籠の中に溜まる。このようなダイは、最大限十単位まで川岸に直角方向に、つなぎあわせることができる。従つてそれは、一種の築の働きをし、幅約三〇〇メートルのトンレ・サップのこちら岸から対岸まで、あたかも舟橋を渡したような光景を呈する。ダイ＝プラホックのステーションとして、トンレ・サップの最も下流に位置するチュラン・チャムレでは、すべてチャム人の所有に属するダイが八単位連結され、各ダイにつき十五～十七人、合計一六〇人のチャム人が、操業に従事している。

このようなダイは、コンポン・ルオンから下流、ルセイ・ケオ、プレック・プノウ、チュラン・チャムレなど四ケ所（相互の間隔距離一、四〇〇メートル、一、六〇〇メートル、一、九〇〇メートル）に敷設され、同時にプラホックづくりの大きなステーションとなつている。（一九四八年以前はプノンペンの対岸チュルチュンワにもあつたが、禁止されて消滅した。）

ダイの漁業権は入札制になつており、カンボディア政府（農業省漁業局）は一つのダイから年十万リエルの税金を徴収する。

ダイの運用にはいくつかのヴァリエーションがあるようである。まずダイの籠（Day chho）には二種類あつて、竹の薄板を編んだ目のつまつたものは日中用いられ、夜間、プラホックづくりの作業が休止する夜十時以後には、小魚を逃がすような目のあらい、間隙の大きいものが用いられる。また、最盛期でダイ籠の容量を越える漁獲があるときは、ダイ籠が除去され、網の先端は単に縛られるだけのものがある。これは第二のポケット（Rou）の末端につく直径三五～五〇センチメートルの籐製リングから、四〇～五〇センチメートルのところをロープで巻きつけて絞り、長さ二〇センチメートルの木の棒で締めつけて網の末端とし、魚をひき上げるときは、捲揚機で網の元から四メートルの部分を滑車で吊り上げ、巻きつけたロープと木の棒をはずして網の中の魚を滑らせてサンパン（Tuk）の中へ落す方法である。この他、同じくダイ籠を用いずポケットの先端を縛るものであるが、第二ポケットの天井部を長さ四～五メートル縦に割り、その部分をブリキカンなどの浮きを使つて水面上に開口させ、中に溜つてくる魚を、この開口部から球網を入れて絶えまなくすくい上げる方法がある。

ダイによつて捕獲される魚類は、鱗が銀白色の主としてコイ科のいわゆる「白い魚」であつて、水位の変動によつて移動する浮魚約九〇種を越える。ただそれら魚種によつて、少しづつ移動の時期がずれており、昨年十二月から今年の二月までの期間をみると例えば、Trey proul（捕獲時の体長一五～四〇センチメートル、プラホックの材料としては用いられない）は、昨年の十二月二十四日から二十六日にかけて、Trey riel（いくつかの種をさらに含むが、捕獲時の体長平均五～二〇センチメートル、プラホック用材料の主体）は、今年一月の八日から二十五日にかけて、Trey kabos（体長三〇センチメートル位、プラホックの材料にはならない）は、昨年十二月八日から十五日にかけて集中的な通過があつた。

プラホックの材料となる Trey changvar（Trey riel をはじめ約二〇種の魚の集合名、すべて体長五～一七センチメートルの小魚、及び稚魚）は、常に水揚全体量の八五～九〇パーセントを占めており、四分の三から半分に降ることはない。十二月から翌年の三月はじめにわたる約三ケ月間のダイの操業は、三期または時として四期に分れる。毎月、上弦の時、すなわち陰暦の五日から十五日まで、最大限毎月十日間である。そのうちの十日から十四日までの間に最高の漁獲がある。十二月、一月、二月の各漁期のうち漁獲高は、十二月が最も低く、とくに雨や曇天の気象条件に非常に影響を受けやすく、漁獲量は一定しない。しかし、一月、二月は乾季の安定した気象条件下に入るために漁獲も安定した量を示めす。漁獲は、各月の上弦から満月まで、新月のあとの五日か六日からはじまつて、上弦の十一日頃から急速に増加する。十三日から十四日の間にピークに達し、十四日を過ぎると急速に減少し、満月の直前に殆んどゼロに落る。減少は増加に比べて一層急速のようである。これは非常に一般的な現象であつて、漁民は毎月上弦の十五日間しか集中的な作業を行なわない。今年は二月の満月（二月二十三日）が終り、約八五日間続いた漁期も、二月二十六日頃にはすつかり操業を終了した。最も水揚量の多い時は、一時間当り一つのダイで五〇〇から一、〇〇〇キログラムに達し、ときにはそれをはるかに越えることがあり、各漁期毎に、一つのダイの水揚は一〇〇から一三〇トンに達する。最盛期には、ダイは五～一〇分間隔でひきあげられ、夜間も休みなく続けられる。時として、ダイ籠が一杯になつて魚が補強の施されている袋網の先端に溢れ出ることもあり、網の損傷を覚悟の上で、ダイ籠を除去し、網の先端を縛つて用いる。今年一月二十二日、午後四時～五時の間の所見では、一回のひきあげ量がダイ籠の五倍に相当していた。またとくに、Trey lenh の通過期には、魚の量が著しく通常の方法では、すべてを一度に引き揚げることができない。そのような時には、網の損傷を避けるために袋網の一部を切り開いて一定量の魚を逃すようにしなければならない。

ダイ籠は、巻揚船（Tuk dok）と一メートル五〇センチの間隔をおいて右岸側に平行に繋留されたサンパン（Tuk）と

の間から引き揚げられる。ダイ籠からサンパン（Tuk）へ落された魚の山は、まず、ヴェトナム人の女の手によってプラホック用の Trey changvar とそれ以外の大形の魚とが選別される。（ヴェトナム人女性五名、男性一名―チュラン・チャムレ）Trey changvar はサンパンの中に残され、干魚にしたり、鮮魚として市場に出される大形の魚は、巻揚船の中にある生簀に入れるためにとり除かれる。その選別には、バンカンと呼ぶ長さ四〇センチメートルの柄のついたT字形の板木が用いられる。ダイ籠のひきあげ作業に従事しているチャム人の男が「ヴォル、ヴォル（量れ、量れ）」と叫ぶと選別作業と同時に箕を使って Trey changvar を集め、一タウ（プラホックの量をはかる単位、後述）に相当する石油カンで、一枡づつ量ってサンパンのさらに右岸寄りに横づけされた運搬用サンパンに移される。この作業は、最盛期には五～一〇分間隔であげられるダイの巻揚作業の合間を縫って行なわれるために非常に忙しい。（PL. 1-4）チュラン・チャムレでは、ダイから河岸までの運搬はヴェトナム人が行っており、それが仲買人を兼ねている。運搬用のサンパンが一杯になると、仲買人のヴェトナム人は、クメール人がプラホックづくりを行っている作業場近くの河岸まで魚を運搬し、籾米と交換する。

ダイは、前述したように、プラホックの材料となる魚のみを対象とする漁法ではない。それは同時に、干魚、魚油、燻製をつくる魚も対象にし、鮮魚として売り出されるものも含まれている。それにもかかわらず、ダイ漁法が、トンレサップにおいてプラホックの製造に適した大量の魚を捕獲できる能力を備えていることが、広範囲の地域からプラホックを求めるクメール農民を集める要因になっている。

〔III〕 プラホック移動と物々交換

(A) プラホック移動

ダイの操業が行なわれる十二月から二月までの各漁期は、クメール人の農民によく知られており、その時期にかけてプラホックづくりの牛車のキャラヴァン隊列が漁場近くの河岸に到着する。そしてそれを待ちうけていたかのように魚の水揚量は増加し、プラホックづくりの作業が開始される。従つてプラホックづくりの作業も、各漁期に対応し、十二月、一月、二月のそれぞれ満月に先立つ数日間の三期に集中している。昨年十二月から今年二月までをみると、十二月十九日から二十六日までの第一期、一月十八日から二十五日までの第二期、二月十六日から二十三日までの第三期の三回にわけて各地からクメール農民がプラホックを求めて集まつてきている。この期間とりわけ第二期から第三期にかけては、農作業の上からみると雨季稲の収穫、脱穀、出荷という一連の作業が完全に終了した時期であり、乾季の乾燥した晴天の続くキャラヴァンには絶好の季節である。すでに述べたように、湖沼の分布に乏しく、常に水を流している河川が稀で、魚の少いコンポン・スプー、カンダル、コンポン・チュナン、タケオの高台稲作地帯のクメール農民は、上弦の七日になると各村毎に牛車のキャラヴァン隊列を構成する。各牛車には、㈠籾米三ピクル約二〇〇キログラム――これはプラホックの材料となる魚と交換するためのもの。㈡村でつくつた籠、草箒、籐製品など――これはキャラヴァンの途中で売つて現金にかえる。㈢五日ないし一週間のキャラヴァンに必要な食料としての米。㈣牛の食用にするワラ。㈤煮炊きに使用する鍋。㈥薪。㈦ゴザ。㈧ザル。㈨籠。㈩壺。㈪石油カン。㈫灯心ランプなどを満載する。プラホックづくりの作業場では、非常に短い時間に魚を処理しなければならず、多くの人手を必要とする仕事が待つているので農民は、子供を含めて家族全員を連れていく。

このようにして、朝早く四時か五時には村を出発する。最も年長の男性が牛車の先頭に乗つて車をあやつり、クメール人特有の黒色の労働衣を着た若者たちが歩いてそれに従う。牛車の隊列は、一〇〇輌から二〇〇輌、非常に大きい移動群であるときは三〇〇輌位が、カンポット街道やタケオ街道に沿つて車を軋らせ、カンボディア独特の農村光景を展開す

る。こうして、キャラヴァンは、八〇～一〇〇キロメートルの道程を、途中で野営をしながら往復する。キャラヴァンが集まるトンレ・サップ沿岸の主要な中心は、コンポン・チュナン街道に沿う右岸に集中しており、プノンペンから上流へ向つて、㈠ 北東九キロメートルの地点にあるチュラン・チャムレ（チャム人部落）㈡ 十二キロメートルの地点ラ・エ（ヴェトナム人部落）㈢ 十四キロメートルの地点プレック・プノウ（チャム人部落）㈣ 四〇キロメートルの地点コンポン・ルオン（チャム人部落）㈤ ルセイ・ケオ（ヴェトナム人部落）などである。ここで魚と籾米の交換が管理され、プラホックの製産が行なわれる。漁村に到着した牛車の隊列は、トンレ・サップの自然堤防上の集落の一角にある広場に落付く。その土地は、ダイの所有者が無償で農民に提供する。牛は、車からはずされて、広場には三〇～四〇台の牛車が整然と並ぶ。普通、農民はここに五日間から一週間滞在し、プラホックづくりの作業に従事する。

（B）籾米と魚の交換

街道とトンレ・サップの間の自然堤防上の広場に陣どつたクメール人達は、まず携行してきた籾米をプラホックの材料となる魚と塩とに交換する。交換単位は、通常容量によつてなされる。その基本は、直径三七センチメートル、深さ二四センチメートルの籠（これは石油カンと同じ容量）と直径一六センチメートル、深さ一五センチメートルの二種の籠で、前者の容量を一タウと呼び、二籠を二タウ、三籠を三タウという。そして二タウは一タン、四タウは二タンと呼ばれる。また後者は、一タウの二分の一に相当し、一コンタンと呼び補助計量に用いる。魚と籾米の交換比率は、籾米の時価によつて変化するが、とりわけ魚獲量によつて大きく変動し、場所や日によつて、また時間によつて異るために、その実態はなかなかおさえにくい。しかし概して、農民にとつて不利なことは少い。というのは、漁民は捕獲した魚を保存することが出来ないから、どうしても売り急ぐからである。一九六七年一月二十二日、午後四時、チュラン・チャムレにおける交換率は、一タン（二籠）のプラホック用魚が、一タウ（一籠）の籾米と交換されていた。非常に条件の良い時には、農民は一

タウ（一籠）の籾米で三タウ（三籠）の魚を得ることができる。平均して魚ムイ・タウ（一籠）に対して籾米ムイ・タウ（一籠）が、通常の相場である。これは、一キログラムのプラホックが七リエルの市場価値をもつのに対し、一キログラムの籾米は、買付がほぼ二リエルであるから、これに塩の代金を加算しても農民にとつてかなり有利な交換であるといえる。漁期の最後の日、すなわち満月の直前になると、魚の水揚げが急激に減少し、その交換比は、籾米ベイ・タウ（三籠）に対して、魚ムイ・タウ（一籠）に逆転し、魚の相場が上昇する。また各月の漁期にあたる五日間内に雲が出たり、雨が降つたりした時には、魚獲が非常に悪い状況になり、農民は移動の利益を失する場合もある。十二月の漁期に際して、まだ雨季稲の収穫が終了しない時は、農民は村で作つた籠や箒、サトウヤシの葉で編んだ手芸品などの生活用品を持つてきて、漁村に着く前に、それを町の市場で売却し、金銭に換えてから、魚を現金で購入する場合もある。また稲の収獲が悪く、魚の代価として籾米を支払えない場合には、漁民から借り入れて、翌年返えすが、その時の値は二倍の量で返済しなければならない。塩は、一キログラム・三リエルのものを、一籠五キログラムの塩に対して、同じ籠の籾米と交換する。このように、いくつもの要因によつて常に交換比が動くためにプラホックの価格を算定することは非常に難しい。魚を籾米と交換した漁民は、まず一年間の自家消費分を別にして、残りを安い値段でさらに転売して、より一層の利益を上げることもあるし、網元が彼らのクーリー達の食糧に保存することもある。なおダイから河岸まで魚を運搬するヴェトナム仲買人の収益も、その日の漁獲高と米の時価によつて変動がある。今年一月二十二日の例では、ダイから魚ムイ・タウ（一籠）あたり十五リエルで購入し、五リエルの収入をあげて二〇リエルで河岸におろして交換にあてている。この作業場におけるクメール人とチャム人、及びクメール人とヴェトナム人の相互のコミュニケーションには、カンボディア語が用いられている。

こうして物々交換が終るとその場で、プラホックづくりの作業が始まる。そのためには通常五日間から一週間の滞在を

必要とする。今年一月二十二日の夕方帰途につくコンポン・スプー州コン・ピセイの一家族は、五日間チュラン・チャムレに滞在し、一年間の一家族の消費にあてる一八〇キログラムのプラホック（前半工程終了）を用意したが、これが製品化すると約二分の一の重量になるから、約九〇キログラムのプラホックが出来上る。普通、年間一戸当りの消費は、七〇キログラム～一〇〇キログラム程度であるとみられる。

〔VI〕 プラホックの製法

プラホックをつくるのに供せられる魚 Trey changvar は、体長一〇センチメートルを越えない程度の小魚の集合名であつて、その中に約二〇種を越える多くの魚種を含んでいる。主要なものは、カンボディア名で Trey riel と呼ぶ体長一〇センチメートル程度のものと、Trey lenh という体長八センチメートル～一五センチメートルのものなどである。それらはすべて鱗が銀白色でコイ科に属し、水位の変動に応じて、大湖からトンレ・サップ、メコン河、洪水林と移動し、プランクトン食の回遊性の強いグループである。Trey changvar の主要魚名（カンボディア名）は、次の如くである。

(一) Trey riel（体長五～一五センチメートル）
(二) Trey lenh（八～一八センチメートル）
(三) Trey chhmar（七～一〇センチメートル）
(四) Trey shveat（八～一〇センチメートル）
(五) Trey kahe（七～九センチメートル）
(六) Trey kros memay（一〇～一七センチメートル）
(七) Trey sbay ka（一〇～一三センチメートル）

(八) Trey kanchrut（七・五～一五センチメートル）
(九) Trey samoc（六・五～一二センチメートル）
(一〇) Trey kes（一〇～四〇センチメートル）
(一一) Trey krom（七～一四・五センチメートル）

プラホックは、その製法の相違から、四種にわかれる。しかし、クメールの農民が自身で消費するプラホックは、第一の方法によるものである。

「プラホックA」

クメール農民によるプラホックの製造は、作業の前半が漁場のあるトンレ・サップの沿堤で行われ、後半は村に戻つてから農民の各家で行われる。

前半工程（トンレ・サップ沿岸での作業）

(一) 男達が河岸から運んできた小魚を一籠（ムイ・タウ）ずつ地面にあけると、女と子供達はそこにしやがんで、魚の頭を一匹づつ庖丁で切り落す（女と子供の作業）。頭を落した魚は、チェルと呼ぶ直径五三センチメートル、深さ四五センチメートルの竹または籐の籠に、ほぼ半分ほどつめられる。切り落した頭部は廃棄されるが、時として魚油をとるために保存する。(PL. 2-3)

(二) チェルにつめられた魚は、再び河岸まで運搬される。河岸の水面には、岸に接してヤシの葉を編んだ囲いの施された縦一三・五、横六メートルの直方形の区画がある。その中は、一辺一・五メートルづつに杭が打ち込まれていて岸と平行に幅四〇センチメートルの板が間隔を置いてはり渡されている。男達は、その板の上に魚が半分程入つたチェルをのせ、杭につかまつてその中に両足を入れ、押しつけるように足踏みする。（男の仕事）この作業は摩擦によつて魚の鱗を

落し、圧搾によつて臓物を抜くことを目的としている。足で踏んでは水洗するために、圧搾によつて排出した脂肪分が白い粥状をなして水面に浮く。それはヤシの葉を編んだ囲いが施されているために流出することがなく、ときおり集められて河岸斜面に穿つた直径三メートル前後の穴に貯えられ、質の悪い魚油をつくるのに用いられる。(PL. 2-4)

㈢ 鱗がはがれ、臓物が抜けたころをみはからつてチェルを川の水に浸して完全に鱗が落ちて、光沢がでるまで手で三〇分間位動揺させる。

㈣ そしてこんどは水を排除するためにチェルの中で圧縮する。

㈤ さらに完全に排水するまでバナナの葉を覆せてその上に重石をのせ、圧力を加えて約二四時間放置する。

㈥ その後魚をチェルから取りだし、二〇〜三〇キログラムの魚に対して塩二〜三キログラムの割合で混合し、塩漬けにして約三〇分間放置する。

㈦ 魚に塩がよく浸透した時に、筵の上にひろげて太陽にさらし、一昼夜二四時間放置する。この時に作業場には、非常に強い香りが充満する。そして再びチェルの中にできるだけすき間のできないように注意深くつめこむ。ここで加工の前半工程が終了する。以上の作業だけが漁場のあるトンレ・サップの堤で行なわれ、魚で一杯になつたチェルは、村へ帰る牛車に積み込まれる。往きの牛車の中で籾米が占めていた場所には、香りの強い魚の籠がのせられる。

後半工程（農民の家での作業）

㈧ 村に帰着すると、牛車からチェルをおろし、魚をとりだして「搗きつぶし」の作業にとりかかる。準備された魚は少量づつ臼（thbal）で搗き砕かれる。臼には二つの形式がある。

(a) thbal bok（別名 thbal dai）：いわゆるタテ杵と堅質な木製臼からなりたつ。

(b) thbal chon：右臼と一点支持の踏み棒の先端に直角に杵がつき、足で操作するもの。二〇分間位の作業で砕かれた

魚は、塩分のある糊状のものになる。この作業中に農民達は、舌で味見をしながら塩をさらに加えたりして味の調整を行う。

(九)　この粗雑なペーストは、六〇キログラム入る素焼の壺に入れて積み上げられ、日中は蓋をせずに日光の下におき、夕方には、虫を防ぐために覆をかける。その間に醗酵が起り、液体がペーストの上に次第に現われてくる。この汁は、毎日とり除かれて別に保存され、Tuk trey（魚の水）と呼んで調味料に用いられる。この汁は涸れるまで約一ケ月間位かかつて除去される。この液が完全に出なくなつたときに、はじめてプラホックづくりの一連の作業が終了し、プラホックが出来上る。製品は一種のペースト状の捏物であつて、幾分、黄褐色味を帯びたネズミ色で、香りはかなり強く、三キログラムの鮮魚から約一～一・五キログラムのプラホックが作られる。それはクメール農民にとつて最も普遍的な惣菜であり、重要な蛋白源となる。

「プラホックB」

この製法によるプラホックは、一般に高級なものと考えられている。材料となる魚は、Trey ras, Trey kes, Trey chhdor のうち、いずれか一種の魚だけを用い決して二種を同時に使うことはない。まず、魚の頭を切り、鱗を落し、臓物を出し、骨も抜きだして、肉身だけを用いる。それから三日三晩桶に入れ、Aの方法と同じようにチェルの中で水をきり、同じ方法で圧縮するようにして詰める。ただこの製法には、足による圧搾作業が欠けている点が、Aの方法と違つている。塩漬けはAの方法と全く同じであるが、搗きつぶしの作業は行なわない。

「プラホックC」

プラホックにはまた Prahoc trey thom と呼ぶやや大型の魚（体長三〇センチメートル以上）でつくられるものがある。それらは主として

Trey chhdor　Trey kolreang　Trey krom　Trey kaek
Trey pra　Trey pralung　Trey chhkok　Trey sanday
Trey Dampul bay　Trey kes　Trey chhlang

などの魚が含まれている。その製法には、Aの方法とやや異つた点がある。まず魚の頭を切り落し鱗を落し、臓物を抜き、洗滌する。そのあと肉をぶつ切りに切断してから水の中へ二日間から三日間浸しておく。その後その肉片を一日ないし二日間、日にさらして水分を抜き、それから壺に入れて塩漬けにする。この製法には、杵による搗き砕き作業はない。そのまま壺の中へ放置し、四ケ月間位かかつて醗酵させる。このプラホックは一年以上二年間ぐらいの長期の保存にあてられる。

「プラホックD」

これはヴェトナム人がつくるもので、プラホック・ユン（ヴェトナム人のプラホック）と呼ばれる。網漁に従事するヴェトナム漁民は、漁が出来ないときに Trey riel という魚でクメール人のためにプラホックをつくる。ことに捕獲の際に傷をつけた魚などは、やや質が落ちるがプラホックの材料としては充分である。まず頭を落した魚を桶にいれて、一晩塩水に漬ける。翌朝魚をとりだし二日間太陽の下で干す。それから塩と一緒に搗き砕き、十日間位壺の中に放置する。塩の割合は魚の目方の一五パーセント位である。これは、ヴェトナム漁民によつてつくられ、クメール農民に売られる。質的にクメール人のつくるプラホックよりも劣つており、少し異つた香りをもち、赤味を帯びているのが特徴である。

プラホックの性質は、製法によつて異り、生産地によつても幾分異なるらしく、シェムレアップ州のコンポン・プルウクのものは、小骨がなくてとくに良質であるといわれている。

〔V〕考　察

以上のべたカンボディア西南部農村地帯とトンレ・サップ流域漁場の間のクメール人とチャム人の交渉は、カンボディアにおける最も大規模な農民の移動をともなつている点に大きな特色をみることができる。この所謂プラホック移動は、また他の地域にも小規模ながら存在する。例えば、

(一)　タケオ州南端ヴェトナム国境に近いコンペン、プレイ・アムポック、キリヴォン、タオウ、プノム・デンのクメール農民は、例年三月から四月のカンボディア新年の前にかけて、トンレ・バサックの洪水限界線下にあるクラプム・チュック湖へ移動する。移動は、部落単位で男も女も子供も全員牛車をひいて行われる。クラプム・チュック湖では、チャム人（チュヴァを含む。この地方ではチャムとチュヴァを区別して呼ばない。）漁民との間で魚と籾米の交換が行なわれ、二日から五日間滞在して、一年間の消費にあてるプラホックづくりをする。チャム漁民は主として大四ツ手網を使つて魚をとり、プラホックの材料となる魚は、トレイ・トウッ、トレイ・スダオなど、トンレ・サップのものに比べてやや大きいものが対象となる。(Fig. 1)

(二)　タケオ州キリヴオンからトンロォプ川（ヴェトナム漁民、大四ツ手網が主体）への移動。

(三)　タケオ州コンポン・チレイからメロン湖（チャム漁民）への移動。

(四)　カンポット州東端、バンテイ・メアス、タニからタケオ川のコンポン・ヨル（チャム漁民）への移動。

(五)　コンポン・チュナン州、ポンレイから大湖の湖尻に位置するチュノック・トルゥ（チャム、ヴェトナム、一部クメール漁民）への移動。

(六)　シェム・レアップ州シェム・レアップ（畑作農民）から大湖北岸コンポン・プルク（チャム、ヴェトナム漁民。パイ

ナップルとプラホックとの交換）への移動。

(七) コンポン・チャム州ダンベルからメコン河左岸クラウ・チュマル（チャム漁民）への移動。

(八) プレイ・ヴェン州テアイからメコン河のコンポン・スネ（ヴェトナム漁民）への移動。

(九) プレイ・ヴェン州カムチャイ・メアからプレック・サンデック（ヴェトナム漁民）への移動。

(一〇) プレイ・ヴェン州バ・プノムからメコン河左岸バ・プノム（ヴェトナム漁民）への移動などトンレ・サップ流域以外では、トンレ・バサック及びメコン河流域に著しい。この地域すなわち、メコン、トンレ・サップ、トンレ・バサックが形成する平野域内では、漁業はチャム人とヴェトナム人による排他的な独占業になつており、そこには多かれ少なかれ、クメール稲作農民とのプラホックを媒介とする相互交渉の場が各地にでき上つている。しかし、トンレ・サップ流域を除く他の地域では、漁民は築、簀建、流し網、大抄網、大四ツ手網、投網などの漁法を用い、ダイ漁法は、用いられていない。したがつて、ダイ漁法とプラホックの結びつきは、全く必然的なものではない。ただトンレ・サップにおけるダイ漁法が、プラホックの製造に適した大量の魚を捕獲できる能力をもつているために、この地域に最も大規模なプラホック移動の中心が形成される一つの要因になつているにすぎない。それゆえ、トンレ・サップにのみ限られたダイ漁法の存在理由は、広大な魚の欠乏地帯との関係において、はじめて意味を持つていると考えられる。

プラホック移動によつて結ばれたトンレ・サップ流域と一定のクメール農村地帯は、人間の生活にとつていずれも完結的ではない自然地域が、相互に欠如している部分を移動交渉によつて補いあい、さらに次元の高い生活の場を形成している。それは、漁場を中心とする同心円の帯によつて構成される機能的な領域として描くことが可能である。このように二つの人間集団が、相互的に物品や労働の交換によつて分業組織を成立させている関係は、一つの共生関係の姿であるとみてよい。このようなチャム漁民とクメール農民との共生関係は、経済生活において社会的協同を保持するきづなとして作

用しているが、その中に慣習的、精神生活的な関係がどれだけ含まれているかは疑問のあるところである。たしかにチャム人のイスラム寺院の建築様式の一部には、ナーガ（竜）のモチーフが使われているなどイスラム教のクメール的変容を指摘することができる。しかし、チャム人の同教徒団としての社会は非常に閉鎖的であり、クメール人との関係は混り合わず、差を保つている状態にある。一般に共生関係は相互に異つた自然地域を結合する原理として凝集作用をはたらかせるが、このチャム人とクメール人との関係は、外面的な適応、調和であつて、両者が継続的に接触し、体質的、言語的に互に内面的生活をわかちあい、一体化の方向に進む同化とは、全く区別されるものである。

さて、こうした住民の移動や交渉が毎年自然のリズム、とくにメコン河と大湖の水位変動によつて、一定の時期に行なわれ、生活のサイクルの一環として機能するあり方は、農耕や漁撈活動のみならず、この地の文化的性格のすべてを規定しているものの一つである。

付　記

今から、もう、あしかけ十年前の夏のある日、わたしたちは東京のある学校の地下室で、山のような荷物をひとつずつ木箱の中につめこんでは、梱包の仕事の手伝いをしていた。これから、その大きな荷物は、松本信広先生の率いる東南アジア稲作民族文化調査団の装備品として、メコン河を遡行することになつていた。そのとき胸をおどらせて心に描いたメコンの流れをいま目の前にしながら、野帳の整理を行つている。仕事の合間を縫いながらの調査であるためと、カンボディアの特殊な国内事情のために、継続的に充分な観察をすることができなかつた。残された滞在期間を活用して補正したいと思つている。

22 Mars 1967（プノンペンにて）

写真説明

PL. 1-1　ダイ配置の全景（チュラン・チャムレ）

1-2　ダイ巻揚機船（トゥック・ドック）とサンパン。

1-3　ダイ網、先端部。

1-4　プラホックに用いる魚の選別作業（中央サンパン上に立つている男はチャム人、他はヴェトナム人の女性）。

1-5　ダイの引き上げ（魚をサンパンの上に流し込む。）

PL. 2-1　ダイ籠（ダイ・チョ）

2-2　魚と籾米が交換されて河岸には、米の山ができあがる。

2-3　河岸斜面にある作業場では、女、子供の手で魚の頭が切り落される。

2-4　足で踏みつけて鱗を落し内臓をぬく男の作業。

2-5　牛車のキャラヴァンで漁村に到着したクメール人の女と子供。